

分野 (2) 気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究

研究課題名 : ④COPDの重症化防止のための効果的なセルフマネジメント教育の実践・普及

申請課題名 : タブレットPCを用いた教育ツールの開発とCOPDエドゥケーター育成による効果的なセルフマネジメント教育の実践・普及に関する調査研究

調査研究代表者氏名 : 植 木 純

1. 評価軸別の評価

大変優れている(5点) 優れている(4点) 普通(3点) やや劣っている(2点) 劣っている(1点)

	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(1) 研究成果目標(目的)の達成度	0人	2人	4人	0人	0人	3.3
(2) 研究計画の妥当性	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
個別評価平均						3.5

2. 総合評価

(1) 評価基準に沿った評価	0人	4人	2人	0人	0人	3.7
----------------	----	----	----	----	----	-----

(2) 記述評価

・タブレットを用いてCOPD患者の教育を推進するとともにCOPDエドゥケーター養成システムの構築を行う試み。COPDエドゥケーター研修会を開き、意見を集約してより良いシステムを構築する。また、このアプリケーションソフトを用いた臨床試験でその有用性を検討することが行われている。

・iPadのアプリケーションの開発と修正、冊子の作成など進展がみられる。

・COPDの患者は今後さらに増えることが予想されている。COPD-educatorの育成は有意義である。PAEがすでに立ち上がっていてそれなりの実績があるのでそれを参考にされるとよいと思う。又、評価委員の先生方のそれに対する意見も考慮していただきたい。

・アプリケーションの開発、修正は、多少の遅れはあるが進んでいると考える。エドゥケーターの育成の対象者には、リハビリ担当者も積極的に含めていく必要があると思われる。

・患者教育用のタブレットPCを高齢者が活用できるように、また、それを実践できるようにエドゥケーターを養成するのは良い対策と思うが、エドゥケーターの応募、認定、登録などは、どのようにするのか。

・COPD Educatorの養成プログラムは更に拡大と多施設を組み込んだ展開が必要と思われる。

・COPDのセルフマネジメント教育は有用であるが、対象は高齢者が多いので理解し易い様考慮する必要がある。

・まだ、評価する人数は十分ではないが、優れた効果が観察されるのでさらなる例数の増加が望まれる。研修会を如何に広げるかも重要な課題であり、学会や医師会とのコラボレーションが必要と思われる。

•COPDの患者の大半は高齢者であり、かつ労作時呼吸困難のため家に閉じこもりがちで、呼吸筋や四肢の筋力低下という悪循環に陥っている者が多い。従って、COPDの患者に呼吸リハビリテーションや筋力トレーニングを課することは臨床的にも有意義で重要なテーマである。ただこれ等のリハビリテーションは長期にわたって継続しないとあまり意味はなくなる。COPDの患者は意欲が低下している者が多いので、長期継続のためには常に他からの強制が働かなければならない。長期継続のためにはどのような媒体を使用して、誰を対象に教育するのが最も効果があるか十分に検討する必要がある。